



## 著者プロフィール

井出野浩貴（いでの・ひろたか）

1965年（昭和40年）埼玉県生まれ

1988年 早稲田大学第一文学部卒業

2007年 「知音」入会

2013年 第二回青炎賞（「知音」新人賞）受賞

同年 「知音」同人

俳人協会会員

翻訳書に「ミシシッピ＝アメリカを生んだ大河」（ジェームス・バーダマン著、講談社選書メチエ）ほか。

〈句集『驢馬つれて』より転載〉〈2014年9月21日時点〉

## 『驢馬つれて』（自選15句）

井出野浩貴

グロープのオイルの匂ひ五月来る  
冷奴ゆづれざることひとつ失せ  
泳ぎ来し子の水滴に目覚めたる  
ナイターのまだ残る灯をかへりみる  
ひぐらしの声旅信にも染み入らむ  
いつかてふ日は訪れず翺雲  
黒板を清め夜学の灯を消しぬ  
むかしから大樹なりけり銀香散る  
あの部屋にいまは誰住む枇杷の花  
聖樹の灯一番星に先んじて  
マフラーの緋を見送りてより逢はず  
三振の子に鯛焼を食はせけり  
卒業生見送り千の椅子たたむ  
うとうととしだれざくらの中  
鉄橋のしづまり雲雀野にひとり